

叙任辭令(十一月分續)

○十一月八日

土木技師 垂 水 輝 治

六級俸下賜(十月二十九日岩手縣)

○十一月十五日

地方技師 村山喜一郎

勅任官ヲ以テ待遇セラル

(十一月十四日内閣)

○十一月十六日

土木技師兼道路技師 矢 島 德 寶

願ニ依リ本職並兼職ヲ免ス

(十一月十五日内閣)

○十一月十七日

福岡縣道路技師兼福岡縣土木技手勳七等

秋 吉 土 造

道路技師ニ任ス

高等官七等ヲ以テ待遇セラル

○十一月十八日

道路技師 秋 吉 土 造

福岡縣道路技師ニ補ス

編輯室の内外

歳末も迫つてきた、本誌も此月號で昭和二年を終るのである、逝く二年中のことを回想すると感慨無量。

本誌が歳を重ねる毎に社會的價値を認められ、本誌に登載した論文其の他の記事が同業各誌に轉載せられ、専門著書にも往々本誌を引用してゐるのは或は營業上の見地からすると不得策であらうが、編輯子はそんなケチ臭い考は持つてゐない社會を指導すれば夫れで十分なのである。

産業道路助勢費豫算の通過の爲にも随分働いた積りであつたが、之は不幸にして成立しなかつたのを頗る遺憾とする、何ても最後の開議で大藏省は三百萬圓を支出することに肚をきめてゐたそうだが、北海道拓殖費の爲に喰ひ潰されたのである想な、來年のことを言ふと鬼が笑ふかも知らないが來るべき昭和四年度の豫算要求に方つては

一と肌ぬいで活動して見る積り、マア臍前を見て呉れ給へ。

大藏省邊でも道路豫算に對しては餘程考慮することゝ爲つた、是れ迄は治水や港湾だけが土木の仕事と心得てゐた、財務當局の頭を道路化したのは、慥に本誌のお蔭であると云つても差支はない。

讀者各位、無事越年され新春に於ける本誌の活躍を待たれたい。(た)

本 號 定 價 五 拾 錢

一 ヶ 年 分 金 六 圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内

發行所 社 團 道 路 改 良 會

編輯者 上 山 陸 造

東京市小石川區諏訪町五十六

印刷所 常 磐 印 刷 所

印刷者 堀 江 關 武